

## 例 言

1. 本書は、奈良県高市郡明日香村飛鳥小字藪ノ下において実施した飛鳥寺南方遺跡の発掘調査の報告である。
2. 調査は、奈良県が計画した広域下水道飛鳥川幹線管渠第27号発進立坑の掘削にともなう事前調査として、奈良県教育委員会の委嘱を受けた奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部（部長、牛川喜幸）が実施した。
3. 調査は、北区と南区にわけて行い、調査期間は、第1次調査（北区）が平成4年12月1日～12月14日、第2次調査（南区）が平成5年1月12日～2月4日、第3次調査（北区）が2月15日～3月10日である。調査総面積は約245㎡となった。なお、推進工法による下水道工事の終了後に、石組溝と石組暗渠の復原工事を平成7年2月15日～3月7日まで実施した。
4. 調査には、大脇潔・本中真・岩永省三・村田和弘・伊藤敬太郎が参加し、遺構の解体と復原工事には、平城宮跡発掘調査部計測修景調査室の小野健吉の協力を得た。
5. 調査の実施にあたっては、住友建設・日本国土開発共同企業体明日香シールド作業所と、奈良県教育委員会・奈良県広域下水道課・明日香村下水道課の協力を得た。
6. 本書の作成は、部長牛川喜幸の指導のもとに、調査部員全員があたり、『飛鳥・藤原宮発掘調査概報 23』に報告した内容に、その後の出土遺物の整理によって得られた成果と、工事終了後に実施した復原工事の経過を併せたものである。土器を中心とする遺物の整理は深澤芳樹と荒木浩司が担当した。なお、「石組暗渠 SX10内堆積土の微遺体分析」は、天理大学附属天理参考館の金原正明氏と、環境文化研究所の金原正子氏に依頼した原稿を再録した。
7. 本書では検出した各遺構に遺構番号を付けた。その際、溝にSD、道路にSF、土坑にSK、その他をSXとして表記した。
8. 写真は井上直夫が担当した。
9. 本書の編集は大脇が担当した。